

第18回森吉山麓高原自然再生協議会 議事録概要

【報告事項】

(質疑等なし)

【協議事項】

事務局	(平成26年度事業について資料により説明)
委員	今年の植栽事業に関して、昨年の森林技術センターからの苗木の根が充実しておらず、今年春の活着度合いが非常に悪い。苗について検討した方がよい。
事務局	苗についてはセンターに確認して善処したい。
会長	昨年ブナが豊作であったが、採種は行っているのか
委員	若干は採種したが、前回の豊作年ほどはとっていない。
会長	今後を考えると、どう苗木を確保していくかも考えるべきであろう。 今年の予定箇所は植穴のみの改良であるが、土壌が残るので土壌条件的にはプラスになると思われる。
委員	息の長い事業であるが、今の立ち位置がよく分からない。今後の管理も含めて、現在がどういった状況なのかという全体像を踏まえて協議会で検討が必要がある。資料もそうした全体像が示せる資料が欲しい。
会長	これまでどれぐらい実施して、これからどのぐらい実施が必要で、植え方も含めて補植が必要な箇所はどれぐらいあるのかといったことが分かる資料が毎回あった方がよい。
事務局	そのように善処する。
会長	環境省として再生の取り組みはどうなっているのか。
委員	再生の目標に向けた活動としては2期計画では終わらないとは思っているが、予算的な制約もありどこにお金をつぎ込むのか、あるいは。お金を使わずに進めて行く議論の時期になってきている。ボランティアや地元の人に、どう再生に関わってもらおうかといったことも含めて、第3期でどういうことができるのか検討が必要。
会長	事業は最初は予算がつくが、最後はじり貧になっていく。どう定着させていくか、具体を協議会で議論していかないといけない。 県の企業の森の話もあったが、どうなっているか。
事務局	由利本荘市や鹿角市で事例があるが、いずれも大きな看板を設置してPRを図りたいという意向が強く、地理的な条件が大きい。企業としては目立つところに参画したいが、森吉は地理的に不利なこともあり企業は遠ざかっている状況。

会長
事務局 ボランティアの参画では、森援隊の活動もあるので紹介してはどうか
再生協議会の有志で作っている森吉山ブナ林再生応援隊があり、森のオブ
ジェコンテストや植樹など定例の活動を実施している。先日、秋田市青徑
会OB会と共同で植樹活動を行っており、今後も継続してもらえる見込み
となっている。

会長 イベントはそれなりに実施されているが、単発で終わっている感じがする。
誰がどこでやっているかが見えないので、そこが見えれば全体でやってい
るといことが発信できる。
そこに協議会がどう協力していくかになるが、ベースとなるものとして、

- ・植えた木を育てていくという面の展開
- ・地元も含めた環境教育的な面の展開

の両面での方針をしっかりと立てていく必要がある。

委員 ブナ以外の樹種については、植栽が難しいのか。極相となるブナできちん
と育つかというのも心配である。

委員 植栽自体は難しくないが、ミズナラなどは事業地周辺にあまり分布してい
ない。ブナだけでなくヤマハンノキも混植しているが、ブナだけでないよ
うにという考えによる。

第2期の計画期間が終わるが、3期の編制作業にあたってはなにか目玉と
なるものを考えないといけない。天然更新を主体としながら、そこに何か
手を加えていくというのも考えられる。

会長 現地視察でも話がでていたが、牧場を造成する際に表土を寄せた部分が
いい再生してよい場所になっていることが考えられる。今日視察した箇所
でも天然更新している部分があったが、植栽がはじまった時期と同じ時期に
更新したものとなるか。

委員 その場所は元々更新しつつあった場所と思われる。

会長 これまでの植栽事業でも、土壌改良の際に一度表土を寄せているようで、
鋤込みの際に元々の表土が入っていない可能性もあるが、植穴のみだとそ
うした状況にはならないかもしれない。

委員 昨年植えた箇所の活着が悪いということだったが、それでは植えた苦労が
台無しになってしまう。苗作りも実施計画と合わせて検討する必要がある
のではないか。

昨年ブナが豊作で、現在稚樹がいっぱい発生しているの、これらを集め
るといのは可能ではないか。いずれ消滅してしまうので確保するなら今
がよい。苗の根切りもポット苗としてあらかじめ作っておくと活着率があ
がるので、2～3年先を見据えて計画的に取り組んだ方がよい。

会長 苗木についても量的にどのぐらい必要で、どのぐらい確保しているのかが

	見えるようにする必要があるので、資料を整備してもらいたい。 ブナはタイミングが難しいので、例えば、イベントで今年稚樹を集めると いうこと可能かもしれないし、それを育てながら、今後どれぐらい必要と なるかを考えながら進めていく必要がある。
事務局	県の林業研究研修センターで育苗しているものと、裏の苗畑でNPOと一 緒に育てている苗があるが、本数管理はおおよそでしかしていなかったの で改めて資料整備を行いたい。
委員	昨年植栽した箇所活着が悪いという話をしたが、できれば、草本が繁茂 する前に今年度事業での補植も検討してはどうか。
事務局	苗木の件と併せて検討したい。
委員	藤里森林生態系保全センターでもこれから自然再生事業を実施するので、 森吉の状況を参考にさせてもらいたい。白神遺産地域の外側になるが、緑 の回廊にもなっており、場所や協議会についてはこれからで予算もそれほ ど期待できないが、ブナを主体とした再生となる見込みで、森吉の知見・ 経験を活用して検討していきたいので協力をお願いしたい。
委員	野生鳥獣センター運営協議会の自然観察会を再生協議会の共催をもらいな がら植栽を実施しているが、秋田県内において森吉で自然再生を実施して いるというPRはどの程度やっているのか。県民の力をいれていくにはも っと周知を図っていく必要があり、まだ認知度が低いのではないかと。 クマガラのすめる森を取り戻す取り組みを全面に出して周知すべき。広く PRすることで企業にも知ってもらえることができるのではないかと。
事務局	PRについてはこれまでも実施はしているが、なかなか広がらない状況。 県内で森林再生として植樹に取り組んでいる団体は結構あり、そうした団 体は長年活動して地域に定着しているので、森吉のPRをしても埋没して しまう可能性もあるように思われる。御指摘を踏まえて周知の努力はして いきたい。
委員	9月に予定されていた森づくりフォーラムが普及啓発につながるというこ とで期待していた。秋田市で実施した森づくりフォーラムは3年継続した ということで、森吉でも3年ぐらいは継続することで計画してもらえるも のか。
事務局	本日、そうした意見があったことを踏まえて検討したい。
会長	地元で人を集めるとするのは難しい面もある。外から人を連れてきて、そ こに地元の人と一緒に参加するようなイベントがあればよい。
委員	第3期実施計画も引き続きどのように進めていくのかを示していただけれ ばよい。
会長	はじめて森吉に来た人が再生の取り組み、進捗を分かる資料や展示が必要。

委員	再生事業全体を通したキャッチフレーズ、取組みが想像できるようなキャッチコピーがあってもいいのでは。
会長	クマゲラの棲める森の再生が、この再生事業のキャッチフレーズになっているかと思われるが、それが全面に出ていないのは確か。
委員	環境省の支援事業で作成したパンフもあるが、パンフを持ち帰った人が再生事業に対して参画するなどの行為に反映するまでに至っていない状況。
委員	NPOで実施しているサマーキャンプは8、9割が秋田市からの参加者であり、そうした参加者をターゲットにして親が足を運ぶきっかけづくりがあればよいのではないか。
会長	そうした取り組みでは、実際に親に何をしてもらおうかというところを考慮しておかないといけない。何を呼びかけるか、長く続けている会は定例行事となっていて遠方からも駆けつけている。そうした形がよいのか、あるいは別の形が良いのか。事業的な植栽がほぼ終わるなかで、次のステップとして戦略やアイデアを出していないといけない。
委員	例えば何かを買うと森吉の再生活動に寄付されます、といった間接的な支援は都市部の人が取り組みやすいのではないか。
会長	第3期計画も原案がでてこない議論が進まない。小委員会などでももう少し議論が必要かもしれない。
委員	民間の力がほしいところ。実行委員会や、商業的な力が必要ではないか。
委員	植えたところがまだよく見えない状況であるが、そこをどう訴えていくか、あるいは見て頂くかといったところで、民間の活力も含めて見えるような仕組みづくりが必要。しかし、まだ具体のアイデアはないのでこれからの予算やPRの仕方と含めて考えていきたい。
委員	今日の現地は、生育状況は良い印象を持った。感じ方のギャップが訪れる方によってあるので、成果の見える化でモニタリングデータや定点観測など見せ方の工夫が必要だろう。
委員	できれば成績の悪い場所も併せて視察出来れば良かったのではないか。
会長	時間がないため両方は見れなかったが、今後の進め方については、これまで協議会で出た意見の洗い出しを行って、何ができるのかを検討しないと同じ議論の繰り返しになるので、そうした検討の場を今年度内に開催してもらいたい。大勢が関わり合いながらの取り組みを検討していかないといけない。
事務局	洗い出しと検討の場は設けるようにする。

以上